

日本養生(ようせい)学会

第23号

よ う せ い

YOHSEI = Life Awakening Arts

事務局：東京女子大学文理学部・横沢研究室内

FAX: 03-3396-9996 <http://www.yosei.gr.jp/>

- ▷ 巻頭言
- ▷ 日本養生学会第5回大会案内
- ▷ コラム「ようせい」
- ▷ 本の仲間紹介
- ▷ 総会案内

本会のモットーは「共生原理」

## 人材と人才

日本養生学会

常任理事 張 勇

人材登用、人材派遣、優れた人材などと「人材」という言葉を見つけるたびに私は思う。中国でもこの語は同じような意味で使われるが、通常、「人材」という文字を使わずに「人才」と書く。二者の違いは「材」と「才」である。辞書によれば、「材」とは、『辞海』（上海辞書出版社）に①建築や製作の原料となる木、また一般に、原料となる物質、②「才」と同義語であって、実例として「材料・木材・石材・教材・機材・鉄鋼材…」などとある。また日本の『漢和大辞典』（学習研究社出版）によれば、「人才（じんさい）」を引いてみると、「すぐれた才能・学問があって役に立つ人＝人材」とある。さらに日本の『現代国語例解辞典』（小学館出版）によると「人材（じんざい）」とは「才能のある人物、役に立つ人物」とあった。

つまり日本では、原料となる物質を意味する材料としての「材」も、生まれつきの才能・資質をあらわす「才」もともに同じ意味で使われているようだ。きっと「ジンザイ」とは、社会を構成する材料として人間をみなし、その中でも優れた才能ある人のことだけを指すのだろう。いずれにせよ、中国人である私には、「人材」というと何か人間が物質的に扱われるように感じられ、社会で物言わず、黙々と作業する人間が浮かんでくる。下手すると、科学技術の進歩につれて、「役に立つ」という「人材」がいつかみなロボットようになってしまわないか。危惧がつのる。

人間にはこころや魂がある。とかくこの世は人間までもがモノ化されがちで心配である。私は、こうした「人材」と「人才」のイメージの差は、「身体（からだ）」を表す「身」と「体」という語によってイメージされる人間のからだに対する捉え方と似ているような気がする。「からだ」を意味する用語・用字法として「身体」や「体」や「身（からだ）」や「カラダ」などとさまざまに使われている。古くは「體」や「軀」とも書いた。「体」と書けば、その「からだ」は、人間を形

## プロフィール

1955年中国上海市生まれ。復旦大学卒・上海体育学院卒。復旦大学及び上海第一医科大学講師を経て1987年日本へ留学。東京学芸大学大学院修士課程修了。一橋大学大学院博士課程修了。社会学博士学位取得（健康増進政策問題専攻）。現在、長野県立短期大学助教授。現代社会における健康思想・健康観に関する著書、論文多数。東洋養生理論や身体技法実技の講演講師経験多数。本会の設立に寄与。本会常任理事のほか人体科学会などの学会で多方面に活躍。

づくり、その実、中身を包む袋であって、こころのこもらない形骸としての身体であるとよくいわれたりする。一方で、「身」と書く「からだ」の意味することは「実の詰まったからだ」「人間のこころや魂を内包し、いのちの籠もったからだ」であるといわれたりもする。

ちょっと考えればわかる。「袋」だけでも「中身」だけでも人間ではない。人間の「からだ」は心身一如、一体となってこそ「からだ」であろう。また「生命」という語においても、「いのち」と読むか「セイメイ」と読むかの違いによって意味する要素に違いがみられるようである。「セイメイ」と読むと物質的に生物学的に「生きている物」としての響きが強くなり、「いのち」と読めば「息の霊（いのち）、血、乳、風」としての魂の要素が含まれてくるように思われる。

確かに、世の中では、才能のある、役に立つ人物として「ジンザイ」が求められている。そこで、である。私としては、求められる人物は性能のよいロボットのようにでなく、ひとりひとりの人間の限らない「こころ=魂」をもち、それぞれのもって生まれた才能と資質の磨きあげられていく「人材」であってほしい。 (完)

## 日本養生学会第5回大会

### — 開催要項 —

私たちは便利な生活を求めてきましたが、一方で、誰もがもって生まれているはずの人間の自然性が失われそうな毎日です。しっかり立てない。歩けない。動けない。うまく呼吸できない。さらにこころの不安定な人が増えているのです。なんととしても、まずは、「からだの礎」をしっかりと築くことが重要です。これらは当たり前のことであり、どんな時代でも変わりませんが、今、皆が忘れがちなのです。本会では、たくましく、こころ豊かに生きる力を養おうと、私たちの文化が創り出してきた伝統的東洋身体技法を見直し、現代科学を採り入れて、元気に生きるヒントをつかみたいと考えています。

今回は、特別講演に、天外伺郎氏（本名：土井利忠）をお迎えします。土井利忠氏はこれまでソニー研究所で先端技術の研究開発に携われ、幼少時からの「命あるロボットを作りたい」という夢のもとに人工頭脳ロボット開発に取り組んだユニークな科学者であり、エンジニアとしてCDやソニーのロボット犬「アイボ」の産みの親です。一方、ペンネームである天外伺郎氏は、人が病気にならないように心身の深層に働きかけ深い自己発見と癒しを可能にするための開発に向けて研究会を主宰しかつ作家活動を行ったり興味深い活動を展開されております。ご講演では、人間の根源的な問いを求めて「宇宙の根っこにつながる生き方」とおして、大いに語っていただきたいと思えます。

さらに本学会の研究プロジェクトチームにより「からだ・こころに語りかけ元気が生まれる『ようせい体操・パート1（大学生対象）』」の完成発表があります。ご期待ください。

つきましては、下記の要項のとおりにより標記大会を開催いたしますので、多くの皆様のご参加をお待ちいたしております。（理事長・横沢喜久子）

### 記

日時：2005年3月5日（土）・受付10:00から  
 会場：東京女子大学・9号館&13号館  
 （JR中央線「吉祥寺駅」下車・関東バス西荻窪駅行「東京女子大前」）  
 参加費：会員2000円・学生500円・一般1000円（第1部&第2部のみ）

対 象 : 関心のある方はどなたでも下記にお申込ください。  
 申込先 : 東京女子大学健康・運動科学研究室内「日本養生学会事務局」  
 E-mail yokozawa@lab.twcu.ac.jp FAX:03-3396-9996

## 大会プログラム

受 付 10:00 (2005年3月5日)

第1部 特別講演 10:30~12:00・9号館9101教室

講師 天外伺郎氏 (ソニーインテリジェンス・ダイナミクス研究所所長)  
 演題 「運命の法則 — 宇宙の根っこにつながる生き方 —」 (仮題)

第2部 実践研究発表 13:00~14:30・13号館 (体育館)

発表会 「からだ・こころに語りかけ元気が生まれる :  
 『ようせい体操パート1』 (大学生バージョン)」  
 (\* 体育館用「靴」を用意してください。)

第3部 一般研究発表 14:45~16:45・9号館9101教室

- |                              |                  |
|------------------------------|------------------|
| (1) 太極拳を教材とした大学体育授業の試み       | 飯田えり子ほか (東京女子大学) |
| (2) 太極拳式立位(懸式)と通常立位との重心動揺の比較 | 天野勝弘ほか (関東学院大学)  |
| (3) 太極拳基本動作実施中の呼吸循環応答        | 勝沼宏彰 (太田西ノ内病院)   |
| (4) 太極拳が脳機能に与える影響            | 平工志穂ほか (東京大学)    |
| (5) 中国伝統内丹養生学と道家気功           | 平沢信康 (鹿屋体育大学)    |

第4部 総 会 16:50~17:30

## コラムようせい

昨年暮れから「学力低下論」が賑やか。二つの国際調査で日本の子どもの学力低下が指摘されてのこと。悲観論者の大方がその原因を「ゆとり教育」にあるとする。詰め込み主義教育の反省から、知識の量や技術のノウハウのみを競う点数万能主義の教育を改めて、考える力や自発的に学ぶ力である「生きる力」の育成重視に切り換えて10年。いまだその成果は出ていない。ところで明けて1月18日には危惧して中山文科相が「総合学習削減」「学力低下4教科重視」の意向を表明した。一方で、サル学の世界的リーダーとして知られる河合雅雄さんが言う。「学力低下と騒ぐけどテストの平均が2~3点下がったことがそんなに驚くことなのか」と。そして「学校は社会性を身につけていくための基本的人格をはぐくむことを第一にすべき」と反論する。日本養生学会はこの「中山-河合」指摘をどう読み解くのか。コラム子は、子どもの本来の力を育てるために、制度として再構築できる学校を「群れ遊ぶ世界」に変えよという河合提案に肩入れしているのだが、はたして不公平なことなのだろうか。

本の仲間紹介

※ 太字氏は本会の会員・役員です。

書名：幸せの公式  
 著者：シュテファン・クライン  
 平野卿子訳  
 発行所：講談社・280頁・1800円  
 一言：グラスに水がまだ半分あると思いますか？ それとも、もう半分しかないと思いますか？ 「まだ」と「もう」の相違があなたの幸せを決定づける。だが「幸せの公式」なる万民共通の公理は無い。その逆説的書名こそが当書の信憑性を際立たせる。「幸せ」とは個々人の身体が異なるように一人ひとりの生き方の舵取り加減で見つけ出すもの。その方法はあると科学的に説く。ハウツーとは無縁だ。読めば「ウムっ」の一冊。

書名：「気づき」の構造－実践と思想の対話－  
 著者：伴 義孝  
 発行所：関西大学出版部・364頁・3500円  
 一言：本書は身心一如の気づきと学びの構造を「からだ」と「生」の原点から解明する。いま求められている新しい「学びの様式」は、知性原理主導でなく、原点の受動様態構造を出発点としている。時代は競争原理から共生原理への転換を要求。近代科学主義過剰依存生活からの脱却を展望し東洋思想と西洋思想の融合を基盤とする21世紀の生活課題を問う。

書名：哲学の誕生－男性性と女性性の心理学－  
 著者：湯浅泰雄  
 発行所：人文書院・425頁・4000円  
 一言：著者は「ソクラテスの言いたいことはその先にある」と門外漢をも哲学の道へ歩みだすよう導いてくれる。「先」とは現在問われようとしている霊性の問題。「人間はいかに生きるべきか」という倫理についての反省は人間心理の根底に備わっているその霊性のはたらきに導かれるべき

だと著者が説く。ソクラテスは死を迎えて言う。「太陽は昇った。光が訪れる」と。そして、著者が言う。21世紀に新しい光が訪れるように。霊性のはたらきとは、ソクラテスが命を賭して教えてくれた、「魂の配慮」であり「無知の知」なのである。この霊性に目覚めるとき現代人にも新しい光が訪れる。いまこそ哲学の時代だと淡々としかも読み手を重厚に「じーん」とさせて語る。

総会案内

日時：2005年3月5日（土）  
 16:50-17:30  
 会場：東京女子大学9号館9101教室  
 議題：① 2004年度事業報告  
 ② 2004年度収支決算報告  
 ③ 2005年度事業計画案  
 ④ 2005年度予算案  
 ⑤ その他

学会誌原稿募集

このたび学会誌名も、「日本養生学研究」に変わります。記念すべき2004年度号に原稿（総説・原著論文・研究報告・書評）をどしどしお届けください。お待ちしております。

年会費の振込は下記へ

みずほ銀行西荻窪支店・普通2118044 日本養生学会・横沢喜久子

会員募集！！

日本養生（ようせい）学会

東京女子大学文理学部・横沢研究室内

FAX: 03-3396-9996

<http://www.yosei.gr.jp/>

〒167-8585 東京都杉並区善福寺2-6-1